

タカラコロラボ 第20回・第2期第3回TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議) 議事録	
開催日時	令和8年(2026年)3月23日(月)10:00~11:30
開催場所	3A会議室
次 第	1 開会 2 議事 (1) 協働の事例集の検証及び周知方法の検討について (2) つながりカフェ TaCoLAB について 3 その他 4 閉会
出席委員	田中会長、橋之爪委員、岡田委員、永崎委員、松村委員、龍見委員、平岩委員、大関委員、山本委員、梅田委員
開催形態	公開(傍聴人なし)

1 開会

事務局から、本日の出席者は10名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則(以下「規則」という)第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者はいないことを報告した。

2 議事

(1) 協働の事例集の検証及び周知方法の検討について

ア 協働の事例集の検証について

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

(ア) (会長) 資料として記事を配布しており、物語的に書かれていてわかりやすいと思う。検証については項目ごとにまとめていただいているので、記事と検証の項目を見合わせながら表現などのご意見をいただきたい。何のために検証するのかというところで、『「気づき」から生まれる宝塚のまちづくり』という条例の中身が分かりやすく丁寧に記載された冊子を事務局に用意していただいた。何のためにやっているかわからないと議論が進まないのではないかという意見があり、読んでいる方もすでにいらっしゃると思うが、この冊子を見るといろいろわかりやすく表示しており、最後のページに推進条例の条文が載っている。例えば、協働のまちづくりを推進するための原則やまちづくり協議会の役割などものすごく重要なことが条例に書かれており、最終的にはこれを見直すことも必要なので、そのためにまずは個別の事例を検証していただきたいというところで今日は両方の資料を出していただいた。どの部分からでもいいし、実際に記事を書かれた方もいらっしゃるので、それがうまく項目の中に埋め込まれているのかであるとか、こういう部分はもう少し書き足してほしいところがあればご意見をいただきたい。

- (イ) 6つの事例が出ているが、6つを何日かに分けてやるのか。それとも、今日6つやるのか。
- (ウ) (事務局) 今日6つともやる予定である。
- (エ) では時間がタイトになってくる。
- (オ) (会長) そのために今回の次第を見ていただくと、シンプルに次第をまとめていただいて、議題が2つしかない。時間はある。
- (カ) 1事例あたり10分くらいで進めていくということか。
- (キ) (会長) 順番にやってもいいと思う。順番の方がやりやすいか。全体の方がいいか。
- (ク) (事務局) 今回の事例は委員の方も関わっている事例が多いので、当事者とインタビューした方の思いを聞きながら整理できたらと考えている。
- (ケ) (会長) 取材をしなかったけれども、この視点が抜けているという話があれば遠慮なく、臨機応変にお話いただきたい。
- (コ) 第1地区というのは、5つの小学校区ごとにまちづくり協議会有り、まちづくり協議会を構成している人員はその小学校区内に住んでいる住人であると定義されている。しかし、まちづくり協議会の運営を主体的にやっているのは、まちづくり協議会の役員やその周りにいる自治会、民生児童委員の限られた方々で、第1地区ネットワーク会議というのは、その主体的な三者が寄り集まって一度に情報の共有をしようということで始まった。我々が5年前に第1地区の将来像として、住民各自が自由に活動する場があって主体的にいろいろ活動しているというコンセプトを決めて、何か面白いことをするために実行委員会を立ち上げた。記事は一昨年のもので、去年も同じく9月に実施してほぼ目標を達成できた。自治会や民生児童委員、まちづくり協議会の役員が全部バックヤードについて、32団体の小学校の音楽隊や子育て世代のグループが自主的に集まってきて自主的に活動して、予算とスポンサーを何とか確保して、自由に活動できる場を提供したという位置づけである。昨年は地域における小さなグループがそれぞれ集まって活動されていてこれでいいと思っていたが、今年も開催することになった。我々が目指した将来像があり、自治会やまちづくり協議会だから何かやらないといけないというところから外れているメンバーをとにかくかき集めるのがこの実行委員会である。そのため、その中で色々な人材を見つけることができた。例えば、チラシをすぐに作ってくれる人がいたり、SNSのグループチャットではみんなが好きなことを発言し、活動に対してあまり不満を持っていないので続けることができる。私も、これを主導してきた前の会長の跡を継いでいるだけだが、ネットワーク会議のもともとの趣旨は、三者が集まって会議をすることと、行政の課長や部長と忌憚なく話途中でイベントをやらないといけないと考えた。大学の先生に講演してもらったけれども、そのあとのグループミーティングで何も結果が残らず、我々はこの後どうしようかという話がないので、この計画に至った。ただし、場所の提供も含めて下

地は組織が準備しないといけない。

最初はみんな戸惑っていたが、最近は慣れてきている。部屋の割り振りなどは社会福祉協議会が事務局として運営しており、定着すれば1つの形になると思う。行政の人にも手伝ってもらっている。

- (サ) (会長) 後方支援に回って、主役を譲っているのはこれから重要だと思う。
- (シ) あなたたちが主役だというのが趣旨だから、自分たちではやらないことにしている。自治会長やまちづくり協議会の会長の中には、自分たちが何かすると思って最初は来ていたが、いつの間にか外されていて、サポートに回るようにしていた。
- (ス) (会長) いろんなことを実施するときに、やりすぎてしまうとか、自分がやった方が早いと思ってしまって、自分がやってしまったらいつの間にか自分が責任を取らないといけない関係になってしまう。そうではなくて、少しでも支援しながら一緒にプロジェクトを実行していくやり方の方がいい。
- (セ) 一番驚いたのは、学生団体が勝手に広報をしていた。会場内にあるチラシを自分たちで企画して、これをやると決めたらそれに徹しているというのがうまく行っている。全体的な計画をこちらが作って、役割を割り振るのはできるだけ避けている。寄せ集めてきたら大体いける。
- (ソ) (会長) 今のお話を伺って、この検証項目を見ると1つ1つがよくわかる。
- (タ) ここまで来るのに7年かかった。最初はグループワークや講演をしていたが、だんだんこのイベントに収束していった。最初の頃は意見の相違があった。
- (チ) (会長) 意見の相違を経験した上での7年で、相手の意見や立場を理解しつつ、一緒にやっていくのは理想的だ。地域全体が賑わいながらやっていくことは少なくとも7年やってきた経験があると思う。
- (ツ) 今年も昨年出てくれた団体に声をかけているが、声が掛からないから行けないと言う団体もいる。それをできるだけ拾い集めてきて、集まった団体をいかに会場でどの役割に振るかはこちら側の裁量である。大ホールを使っている音楽隊にはたくさんのお母さん達が来てくれるが、自分の子どもが出演したらいなくなってしまう、次の団体のときにはお客さんがいない状況は是正しないといけない。
- (テ) (会長) 個人の思いとみんなの思いをどう紡いでいくか工夫が必要になる。
- (ト) 良いことばかり話をしたが、悪いことは財政難である。
市のきずなづくり推進事業補助金の交付を受けていたが、スポンサーを見つけて今年は補助金なしでやっていこうと思う。あれは3年しか申請できず、昨年は2年目で今年もらうと3年になり、その後は自主運営しないといけないため、早めにやめて1回分残して、スポンサー活動をしようと考えている。
- (ナ) (会長) 助成制度もうまく使いつつやっているということか。
- (ニ) そうである。ほかの助成制度があれば申請するが、自主運営できる形にしないと補助金もずっと交付できるわけではない。

- (ヌ) (会長) 項目ごとに今のお話の中で、重要なポイントをいろいろ抜き出してくださっているが、何かもし書き込むことがあればおっしゃっていただきたい。
- (ネ) 資料1は公表される内容なのか。
- (ノ) (事務局) 最終版は調整しようと考えているが、今この資料が公表されることは想定していない。事例の検証をするためにこの資料を基にやっているの、この資料自体は今のところ非公開である。
- 最終的に推進条例検証までフローに沿って議論していくが、その中で議論した形が6つの事例を土台として決まれば、公開できると考えている。
- (ハ) 先程の裏方に回るといふ話などは資料1には載っていないのでわからない。そもそも情報量がかなり多いので、その中のどこを拾い出すかということで資料1があると思うが、資料1に事例の記事をどこまで落とし込んであるのか。資料1には出てくるが、記事にはモヤっとした説明で分かりにくい場合、整合性はどうか。ここで話し合っただけでまとめるのはいいが、まとめたものが反映されないのであれば資料1はどこに行くのか。情報量が多く、それぞれの思いであったり、やってきた経緯であったり、結果や今後であったり、お話いただいた直近の話ではなく何年か前の話がまとめられており、もう1つ先に進んでいたりするため、内容に差が出てきている印象を受けた。
- (ヒ) 記事はしっかりまとまっている。我々のやりたいことが項目ごとに書かれており、私が補足した情報もあるが、少なくとも市のホームページに公開されている記事にはポイントが全部入っているため満足している。やった内容が少しずつ進化していることは確かだが、文章上は同じであるためこれでいいと思う。1つの文章を説明するときに、思いがあるため説明者が文章以外のことも補足的に話す感じである。記事の文章をまとめてくださった方は、きちっとポイントを掴んでまとめているので、我々は違うことを言っているとは思っていない。
- (フ) 今は事例集の検証ではなく、事例の検証をしてこれから先の議題に進めていくということだと思う。事例の記事は参考ということで、記事の内容から資料1を出したということである。
- (ヘ) ということであれば、特段資料1に大きく付け加えるということは生じないと思う。
- (ホ) 記事はこれでいいが、実際検証するときに資料1を事務局から案として出していただいて、本質的には先程(ヒ)委員から補足でおっしゃった様ことであるみたいなことか。
- (マ) 毎回前進しないといけない。1回やったら振り返りをやり、出た反省点から次の回は何をしようか出して、だんだんレベルが上がっているだけである。記事はその通りである。
- (ミ) そうであれば、記事の時点の検証の確認をするということで、現在のところは加味しないと解釈していいのか。
- (ム) やはり先に推進条例を先に読み合わせるのはいかがでしょうか。

- (メ) 推進条例を検証するために、資料1に書いてある内容で足りるかという話だから、推進条例を分かっていないと進まない。
- (モ) だから『「気づき」から生まれる宝塚のまちづくり』持ってきてもらった。最初に推進条例の読み合わせをやりたい。
- (ヤ) 資料1の確認は、前回の会議のやり直しをしているのではないかと、(ハ)委員は疑問に思われている。私も同じように思っており、資料1の確認はもういらないと思う。そこから推進条例に進もうという結論に至ったのに、事例の検証に戻っているため疑問に思った。進化は絶対するし進化に迫いついていけないといけないから、毎回事例の検証をしないといけなくなる。
- (ユ) (会長) おっしゃるとおりだと思う。そのために、『「気づき」から生まれる宝塚のまちづくり』を配ってもらったので、並行してこの冊子を開いて見ていただきたい。資料1を見ると、事例別検証で項目ごとに書かれているが、例えば「成果」のところで結果しか書かれていない。(タ) 委員のお話では、過去の経過があつてこういう結果になったとお話されていた。
- 推進条例だけでなく、協働のマニュアルも見直していくため、順番にやっていく方がいいのか、並行してやっていく方がいいのか、(ム) 委員がおっしゃった様にまず推進条例をやってからがいいのか、皆さんはどういうやり方がいいかご意見いただきたい。
- (ヨ) (次長) 事務局に、これをやっている意図をもう一度してほしい。委員の皆さんから、同じ資料を何回も配っているという意見が出たけれども、どういう意図でこの流れでやっていて、どういう流れの時間・スキームでやっていくのかというところが伝わっていないと思うため、そこを説明してやって行ったらいいと思う。私は、資料1の内容・まとめは、事例集の記事は文章で物語になっているため、箇条書きでいろんなポイントをまとめており、皆さんに1つずつまとめを作ってもらい事務局でまとめて、事務局で勝手にまとめてしまうと何のための委員会かとなってしまうため、今回お配りした。しかし、まとめているから全部一言一句載せているわけではないため、事例集にあったけど入り漏れていないかとか、表現方法に違和感ないかというところを話してもらおうと事務局は意図していたと考えている。意図やこれからのスケジュールについては今考えていることを皆さんにお伝えしてご意見もらって、調整していったらどうか。
- (ラ) (事務局) まずホームページに公開されている事象を、こちらについてはポイントがたくさんあるため、事務局の案として取りまとめたものを事実としてこういう事例であったという土台を作りたかった。次点の進化したところもあると思うが、あくまでも一旦そのタイミングで作られた事例として取りまとめたものを土台として作りたかったという思いがある。事務局がポイントだけをまとめたものになるため、おそらく標準的なものになり、先程(コ) 委員がお話いただいたように、お話を聞く中でこういう思いがあるということであれば、

今ここに書いてあるものにそういう思いを付け加えていったほうがより事実にあったものになっていくと考えている。そのため、まずは事実としてこういう事例があったというものを作っていきたいと考えている。しかし、それをするにしても、どういう取り組みをしていくのかという話で、推進条例を検証していくにしても、推進条例のどこを見ていけばいいのかご意見としていただいたので、今のフローとしては、一旦は土台の部分を固めたうえで協働のマニュアルや推進条例の検証をまとめていくため、どういうポイントを見ていくべきかを踏まえて、事例集と協働のマニュアル、推進条例、他の条例もあろうかと思うが、どういう位置関係になるのかをお示ししながら、次回以降まとめとして進めていけたらと考えている。現状としては、事例の事実をインタビューされた方や実際に取り組まれた方の思いを付け加えたベースの資料を作っていけたらと考えている。今後のフローとしては、推進条例の認識合わせをしたうえで進めていきたい。

- (リ) (会長) 推進条例を皆さん読んでいただいているか。推進条例の検証も考えつつなので非常に複雑だが、皆さんなら分かっていると思う。
- (ル) 推進条例の検証というゴールがあるが、ゴールが曖昧過ぎて何をするのか分からない。だから推進条例を先に皆で読まないか提案している。また、読むだけではなくて、推進条例で引っかかるところなどをまずは皆さんとお話して、実際の事例と照らし合わせて推進条例に持っていけたらいい。最初に検証しないといけないのは推進条例の検証だと思う。
- (レ) (会長) やり方は2つあり、どちらも間違いじゃない。推進条例の大事な項目から議論して細部にいくやり方と、細部をグルーピングして最終的に条例の原則につながっていくやり方もある。どちらのやり方でも間違いではないし、やれると思う。認識として、この会議でどちらのやり方がやりやすいか。
- (ロ) 前回の会議で少し読んで来ようという話があって読んだときに、どういう目線で読んだらいいのか情報がない。私はまちづくり協議会でやっているからわかるが、他市と比べて何が足りていないのかはわからないため、AIに聞いた。そういう目線を持ってない状態で話をすると足りないものができる。そういうこともみんなで共有しながら議論したい。勉強からここでやると時間が足りないため、それぞれが調べてきたことを共有するようにしないと、あまりにも広すぎて切り口が分からない。
- (ワ) (会長) 人の数と同じくらいやり方があるけれども、大枠としてどちらからやるのか合意を得ておかないと、疑問点を持ちながらやっても進まない。最初のやり方を皆さんで話し合って決めたい。
- (ヲ) 事例の検証についても、どこの目線で見えるかで全然話が変わり、私の印象としては、インタビューもしていないし実際に関わってもいないため、記事に書かれている情報しかわからない。資料1が本当にあっているのかどうか、正しいことが伝わっているのか考えてほしいと言われても返事のしようがない。資料

1 と記事がすり合わされているのかということもよくわからない。苦勞されて積み重なって今こうなっていると話を聞くとずれているのかなという印象なので、それであれば当事者の方に内容を確認してもらった方が事例の検証になると思う。この記事はどなたかが確認されて、取材もされて、先方も了解したものがきちんと載っているので間違いはないと思うが、この事務局がまとめたものは内容を確認してほしいと言われても、要約してしまうと伝わりたい意図も伝わらなくなってしまうところも大きいので、この内容があるかどうかをこのデータしか持っていない人間が判断するのは厳しい。当事者に聞いてもらって、ご意見をもらった方が本当の検証になると思う。推進条例についても、おっしゃっていたとおりで、曖昧な表現があったりするので、まちづくり協議会に関わったことがある人にも理解できるのかという印象があり、それをどのような形で見直していくのか、問題点の共有から進めたほうが良いと思った。

- (ン) (会長) 推進条例は2021年に施行されて、5年がたっている。5年の歳月でいろいろなことが変わり、コロナもあったしそれ以降の立ち上がりもあったので、検証して、何が問題になっているか話し合ったうえで見直す方が分かりやすいということか。
- (ア) 事例の検証は、知らない人間が思い込みで話をしたら違う方向にいつてしまうから、当事者に確認してもらったものが正解である。
- (イ) この記事はすごく完成されていて、1つ1つの事例を見ていく意味も先程の話から分かってきたが、やっている人視点にならないと話が進まない形で進んでいる。私たちはイベントの振り返りをしているのではないのに、イベントの振り返りをずっとしている。それはすごく有意義ではあるが、推進条例を見直すところからかなりずれていて、そこは私たちがするところではないと意見を聞きながら疑問に思った。
- (ウ) この作業からもう1つ進んだ方が、イメージが湧きやすいと思う。6つの事例があって、今どんな人がまちづくりに関わっていて、こんな課題があるというのを条例にまとめていく。足りない情報が見えてくると思う。今の状態で議論しても、何が足りないかわからないし議論しにくい。
- (エ) その議論を進めるために、『「気づき」から生まれる宝塚のまちづくり』をみんなで見合わせて、共通の指標にするのはどうか。
- (オ) 『「気づき」から生まれる宝塚のまちづくり』だけ読んでも、わかりにくい。こういう条例についている逐条解説があるはずだ。推進条例を初めて読む人もあると思うから、これどういうことかという疑問から聞いた方がよいと思う。
- (カ) (会長) 市役所と市民の協働会議であるから、認識を合わせながらやっていないといけない。皆さんの意見をお聞きすると、推進条例を少しでもやろうとのことなので、読み合わせをするか。
- (キ) 条例を検証するまで大きな枠からスタートするわけではなくて、下からの積み

上げという方向だと思う。下から積み上げるために、推進条例をみんなですり合わせて共通理解したら、条例の検証がまとまると思う。

- (ク) 課題設定が一番時間がかかる。一番時間をかけないといけないから、1～2回の会議を使ってでも、推進条例に対して思い思いの話をしながらゴールを考えていきたい。やり方もそれによって変わってくると思う。
- (ケ) (会長) まずは推進条例ができてから5年の軌跡を見直すことでいいか。
- (コ) (事務局) もちろん議論あつての話なので、ゴールがどういうものか見えない中で話をするのは難しいという意見があつたので、次回以降出来たらと考えていた。事実としてこういう事例があつたと、まずは資料としてとりまとめたらいいと思って事務局が作っただけでなく関わった方もいるので、そういった意見も踏まえてブラッシュアップした土台の資料ができたらと考えていた。事実に基づいて作るものなので、理念などに左右されず、事実を基に思いを付け加えたらいいと考えていた。
- (サ) (会長) まちづくり関連条例が最初の研究の論文だった。全国のユニークな条例を取り上げて類型化し、規制・誘導・支援に分類して、これからは支援が多くなると予想した。同じ研究室の先生から、条文の中身ばかりでなく実態をしっかり見ないといけないと言われた。皆さんの思いと同じだと思う。実態のことも議論しつつ、推進条例も読み合わせていく方向が一番いいと思うがどうか。
- (シ) 事例集を作って、事例を検証することは元々フローに入っているので、並行してやって良いと思う。
- (ス) おっしゃるとおりだと思う。事例の検証は、推進条例の「評価・検証の原則」にあたると思う。ある程度分けて判断していけば、もう少し話が進むと思う。検証の部分をどういう形で検証して、その結果を共有して、推進条例にどうやって役立てるのかを考えたらいい。推進条例は活動者向けのルールであると感じた。
- (セ) (会長) みんなが推進条例が分かるように、小さな団体や市民も主役になるように全体を盛り上げていくなれば、条例もそうあるべきだ。
- (ソ) (事務局) 推進条例の認識を合わせることは、事務局も皆さんと同じ思いである。その中で個別の事例を取りまとめたものを見ながらという話があり、例としてお渡ししているものが参考になると思う。ある程度網羅されていると思うが、ずれていると見ながら進めようまく行かないと思う。皆さんの中でここに書いている内容はずれていないという前提であればこれを基に進めていくことはできるが、確認として特段ずれはないという認識でいいか。
- (タ) やっていない人にずれていないか聞いても、記事とのずれの話だけであつて、本当にあっているかどうかは当事者に聞かないとわからない。いくら聞かれても合意はできない。
- (チ) (事務局) 関わっている、関わっていないで差は生まれてくると思う。それは

インタビューを通した中で作り上げていたものなので、関与していないから判断できないことはあろうかと思うけれども、できる範囲で確認いただきたい。

- (ツ) 合意を得る相手が違うということか。
- (テ) そうである。ここで検証しても当事者でもないし取材もしていないので、本人に聞いたほうが早い。事例の検証自体はおそらくそれで終わると思う。それをベースに推進条例を見るのであれば、ここでそんなに議論する必要があるのか。我々がいろんな意見を言ったって、内容を本人に確認したらそれで終わりではないのか。
- (ト) (テ) 委員がおっしゃることはよくわかるが、それは事例の1つ1つを細かく検証していく検証で、その時に当事者がいないのは違うと思うが、今ここでやろうとしている事例の検証というのは協働とはどういうことなのかというのをこの事例からポイントを抽出して行って、宝塚市の協働の実態を検証したいと思う。そのために事務局は、資料1に漏れていないか確認している。
- (ナ) 何回も言うが視点の問題だと思う。主観になるが、どう考えても当事者の振り返りをされていて、引っ張られていた。
- (ニ) この事例集からまともに移るうえでは、国語的に取り出したものが合っていればそれでいいと思う。ここにすら載っていないことがいっぱいあるが、そこはおいておくという話だと思う。
- (ヌ) (会長) たくさんご意見が出たが、最終的には推進条例を検証する。事務局が生成AIを活用して記事からポイントを分類し、資料1を出していただいたが、会議で話し合うことではないということなので、間違っているかどうかの確認は事務局の方でしていただいて、齟齬がなければいいのではないかと。議論として必要なのは、事例には載っていない部分が活動の中であると思うので、それを議論しつつ、事例に載っている活動者の意見を聞きつつでいいか。議論していくのは次の会議でいいか。
- (ネ) (事務局) 今日の時点では当初の時間配分的に時間がないので、今後見ていく中で条例との位置関係もお示しできたらと思う。そういったものを踏まえながら議論を深めていきたい。
- (ノ) (会長) 承知した。次回は位置関係のマップを作ってくださいということなので出していただいて、協働の在り方について条例も含めて議論していく。
- (ハ) (次長) 推進条例を1回見直したほうがいいという意見が出て、説明資料みたいなものもあるのかというところで、逐条解説がある。説明資料がないと読み方が分からないというところで、前身の促進会議で逐条解説もみんなで作った。今の議論を聞かせていただくと、逐条解説を共有してみんなで勉強する時間を取らないと、皆さんそれぞれで時間を取れないと思う。結構時間が必要だと思う。条例を勉強して、どうやって進めていくか話し合えたらいいと思う。
- (ヒ) 公開されているのか。
- (フ) (次長) 市のホームページに公開されている。皆さんに読んでてもらったう

えで、そろっているところでもう1回復習する場がないと、読んでくるレベルも様々だと思うし、勉強会を1~2回やったらいいと思う。条例は理念条例になっていくため、条例に書いてあるとおり「施工の日後5年を超えない期間ごとに、この条例の施工の状況を検証し、必要があると認めるときは、その結果に基づいて必要は措置を講ずるものとする」とあるので、次回以降勉強するが、理念条例は絶対100%にならない。宝塚市の協働のまちづくりの理想ということで、それが今80点なのか30点なのか、足りていないならどんな要素が足りないのか議論する流れになると思う。それをやるために事例集の検証をやった。宝塚市のおそらく進んでいるだろう事例を第1期の委員で選んで、インタビューして検証し、進んでいるかどうかを議論する場だと思う。条例の意図が分からないと何を検証したらいいかわからないと思うので、次回、条例を勉強すると決められたら、事務局も資料を用意できる。また、マニュアルの検証もあり、条例は理念でどこまで進んでいるかで、マニュアルは手段を書いており、マニュアルの方が10年くらい古い。実際にやるマニュアルというのは、おそらく変わっていかないといけないという議論ができるのではないかと考えているので、条例とマニュアルをもう1回みんなで改めて知る機会の場を設けさせてもらったら、何回かかるかはその時の進捗状況に応じてやれたら、すっきりすると思う。それを聞いたうえで、どう進めようみたいなところを事務局も考え方をお示しして皆さんに確認をとれると思う。

- (ヘ) (会長) 承知した。では、次回にやることは、条例の読み合わせになる。本当は今日してもよかったが、まずは皆さんのご意見をいろいろ聞かないとわからないところがある。
- (ホ) (次長) 逐条解説をぜひ見てもらった方がいい。
- (マ) マニュアルというのが逐条解説にあたるのか。また別のものがあるのか。
- (ミ) (次長) 逐条解説は理念を書いていて、実は協働のマニュアルはそれより前にできていて、実際に協働していくときの事務的なものを書いている。理念的な条例の検証と、実際の手続き的なマニュアルの検証を両方やれないかというご提案である。おそらく条例だけやっても、次にマニュアルの方の実際に議論になって、そこは実はマニュアルの方だったという議論になってしまうと思うので、理念と手続きの両方を見て、実際の協働から手続きの方は変えないといけなかったり、理念の方は進み具合が少し甘いからみんなでどう頑張るかという話をする方がすっきりすると思う。私は手続きと理念の両方がどれに入っているかわかるから進められるけれども、おそらく皆さんはそこの共通認識なかなかできていないので、まずは認識を合わせた方がすっきりすると思う。理念と手続きの部分が混同していることは当たり前だと思う。
- (ム) とりあえず資料をはっきり用意してメール等で送ってもらって、それを読んできた方がいいのではないかな。
- (メ) 説明資料は配られていない。

- (モ) (事務局) 以前お配りしている。
- (ヤ) (次長) 改めてお配りするか市のホームページのリンクを貼るかして、読んできてもらったうえで、勉強は1からみんなで作った方がすっきりする。何をやるかははっきりしたうえで、次回どんな方法がいいか決めていくのはどうか。
- (ユ) 承知した。
- (ヨ) 市ホームページのIDを教えてくれたら、ホームページを見る。
- イ 周知方法(チラシ案)について
- 表記について事務局より資料に基づき報告を行い、意見交換を行った。
- (ア) 前のときもそうだったが、これも視点の話だと思う。まち協に関わっている人にはすごくいいなあと思うが、全く関わったこともなくて全然知らない人が、初めてこれを見ても何のことを言っているのかわかりにくく、そもそもがそうだが少し難しい内容だと思う。
- (イ) (会長) 何も関わっていない人にどう伝えていくかっていうのはすごい難しく、それも含めて、どうしたらいいのか議論する時間が必要である。
- (ウ) おそらくアプローチの方法もこれとは全然違う方法をとらないといけない。見せる内容も全然違う。
- (エ) (会長) 皆さん活動しておられた方ばかりなので、全く関わりのない人は入っていない。その人の声をどう拾って、どう伝えていくかは想像でしかない。
- (オ) 小さな市民団体は、大きな団体には入り込めないから、自分たちだけでやろうというグループがたくさんいる。それと何かやってみたいがどこに行けばいいかわからない人もいる。そういう人に読んでももらったらいいと思う。全く意識のない人に読んでもらっても変わらない。そこまで読んでもらう必要はない。
- (カ) 何バージョンか作ったらいいのではないか。例えば、定年を迎えそうな男性の方向けなどどうか。それこそAIは案出しが一番得意なので、ニッチな対象に向けたチラシをたくさん挙げてくれると思う。そういう時に活用するとすごく時短になる。
- (キ) チラシなのでターゲット層を絞ったほうが届きやすい。
- (ク) 子育てサークル作ってみたとか、居場所作ってみたとか、男性向けの何とか等具体例がもう少しあった方がイメージしやすい。
- (ケ) 居場所の作り方みたいな講座は人が集まる。最近、皆考えていらっしゃるみたいなので、居場所という言葉があるといいのかもしれない。
- (コ) (事務局) ここで議論するというのも時間的ちょっと難しいので、いろんなご意見いただいたが、前回何かチラシ作るときに、作業班で作らせていただいたと思うが、またその作業班で煮詰めていきたいが、そちらでいいか。作業班にご参加いただける方は手を挙げていただきたい。
- (サ) 作業班の意味がわからず参加していたので、何となくそういうことだったんだとわかった。
- (シ) (事務局) 会議の中で決まらないことや会議に向けて話し合うべき決め事を、作業班として、委員の皆さんにボランティアで集まっていただいて、今回のチラシだっ

たら、どういったことを入れていきましょう等の案を練って、それを会議に挙げて、作業班で話し合って決めたことをご報告をさせていただく。前身の会議から、いろんな冊子を作っていくときに、協働の条例や協働マニュアルもそうだが、普通の市の審議会だったら市が案を提示して、委員の皆さんに意見をいただいて作っていくやり方だが、これは協働の集まりだから、普段事務局がやっているようなところから、委員さんの方に入ってもらって、有志で作業班みたいなものを作っている。例えば、今回のチラシづくりの場合、素案づくりから一緒に入ってくれないかいうのを有志で手をあげてもらって、3、4人来てもらったら、そこに市も入って、さっき言っていた高齢者バージョン等3バージョンぐらいを一緒に作って、細かいところまで話をして、会議では皆さんのご意見を聞いて、微修正していく場みたいな感じが作業班になっている。作業班は土台のところから皆で作ってやっていけることがメリットだが、やりすぎると皆さんお忙しいので、少し手間がかかっていくところと、作業班が無償で少しお手間をちょうだいするというのが作業班の特徴になっている。今回のチラシの部分だったら、何パターンか作るのに一緒に素案づくりからやってもらうのが作業班であって、手を挙げてもらったら、この作業場に入ってくださいということになっている。促進委員会的时候もこの第1期にも実は作業班というのがあって、何回か作業班で集まってもらって、つながりカフェも作業班で実は内容を揉んで、ここで微修正している。素案から入っているので納得度も高いし、その部分から入ってもらうと非常に市としてもありがたいし、この審議会の1つ特徴だと思っているので、少しお手間だが、作業班でやっていただけたらより良いチラシができあがっていくかなと思う。

(2) つながりカフェ TaCoLABについて

ア 2、3月の開催結果報告

イ 今後の開催予定について

表記について事務局より資料に基づき報告を行った。

3 その他

4 閉会

以上